

山岳友の会会報

2025 年 9 月 第 56 号



五竜 中遠見 撮影：荻野 秀夫

も く じ

第 74 回現地研修会（六甲山）【後】	報告 渡邊 修	2
第 75 回現地研修会（塩田平）	報告 塩沢 乃武行	7
第 30 回上高地談話会（涸沢）	報告 澤田 義幸	8

第 74 回現地研修会

「六甲山と比叡山を巡る有馬温泉への旅（後半）」報告

渡邊 修

さて本日のお宿「有馬御苑」は私が就職してから 3 年目の秋(21 歳時)に職場の慰安旅行でこの旅館に宿泊したことがあります。もう 40 年以上も前の事ですから、宿が良かったかどうか、料理が美味しかったのかどうか全く記憶に無いのが本音と言ったところですよ。それでも六甲山にロープウェイで上がったこと、動物園に行ったこと等、中でも一番記憶に残っているのは撮



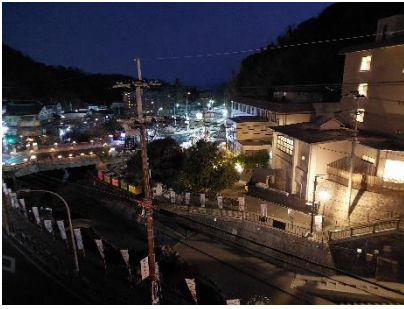
影禁止の宝塚歌劇団の公園を見ている望遠レンズで写真を撮るバチバチ撮って注意を受けたことは一番よく覚えています。当時は土曜日も半日勤務していた時代で娯楽は色々あったと思いますが何と言っても慰安旅行、単車でのツーリングが一番楽しかったと思っています。

大トリとなった三名泉最後の温泉「有馬温泉」・・・前半でも書きましたが、随分日が経っているので念のためおさらいにはなりますが、この有馬温泉では東西走行の断層からは低温泉、南北走行の断層からは高温泉が噴出しています。それぞれ、湧水口では透明ですが、空気に触れ着色する含鉄塩化物泉(赤湯)は「金泉(きんせん)」、それ以外の透明な温泉は「銀泉(ぎんせん)」と呼ばれています。今思うと 40 年以上前にこの 2 種類の温泉があったことさえも全く覚えていません。(余談ですが・・・今回の現地研修会参加前には、昭和 56 年の野尻営林署勤務時代からずっとお世話になっている床屋さんへ行った際に床屋の兄さんからは「なべちゃん、有馬温泉に行ったらねえ「金泉」と「銀泉」両方の温泉に入ってこなきゃだめだよ！有馬温泉の名物だからね！」と言われました。前半にも書きましたが、江戸時代の温泉番付では当時の最高位である西の大関に格付けされた「天下の名泉：有馬温泉！」勿論、そのつもりで来ているので片方の湯だけ浸かるなんてそんな心配は御無用でした。



何せ有難いことにバスに乗車して 8 時 15 分過ぎ(松本乗車組は 7 時半過ぎ)からは、見学時間とトイレ休憩を除き車中で延々と飲み続けているので(勿論、昼食時も)、一日中ほろ酔い状態です。この状態での入浴など決して体には良いわけはありませんが、何時も通りの入浴となりました。脱衣室に入ると既に大勢のお客さんが入っていました。流石、天下に名だたる名泉有馬温泉！！平日でも人は多いんだなあと感じました。脱衣室には温泉の効能、2 種類の温泉の説明が書かれていました。まずは室内の「金泉」へ入浴、そして露天風呂風？外の「銀泉」の温泉に入りましたが・・・正直、違いは色だけで後は全く解りませんでした。何時もより少し入浴時間を長めに取って「金泉」、「銀泉」の 2 種類の温泉を交互に入浴して一日の疲れを癒し十分に堪能させていただきました。後は着替えて部屋に戻り夕食前に軽く食前酒を飲んで、しみじみ夕食に備えるだけです。・・・ところが脱衣室で友の会始まって以来の思わぬとんだハプニングが発生してしまいました。

温泉から出て着替えようとした我が友の会メンバー F さんが「おかしいなあ！俺の衣類が無いんだよ・・・！確かに此处で着替えて此处に置いたんだけど、何処を見ても俺の着ていた衣類



が無いんだよ！」・・・脱衣室にいる友の会メンバーが探しても見当たらないのです。皆さんほろ酔い状態なので一度冷静になって再度残っている脱衣籠を見てもFさんの衣類は見当たりません。「何処に置いて着替えたの？」「確かに此処だけ！！」その場所を見ても空の脱衣籠は有りますが、下着や浴衣の入っている籠はありません。「取り急ぎ宿の担当の方を呼んで事情を説明しよう！」と連絡、早々に女性の担当者が

来られて事情を聴くも「この様な事は此処で働いてから初めてです。」との事。恐らく、他の宿泊客が自分の衣類と誤って着て行ったに違いないと確信すれども・・・我がメンバーだけの宿泊なら兎も角・・・大勢の宿泊客がいる状況下で、まさか管内放送で「ご宿泊のお客様にお知らせいたします。男性用浴場で衣類等を間違われたお客様・・・お見えになられましたらフロントまでお知らせくださいませ！！」・・・なんて放送って訳にもいかないし、勿論、対応してくれている女性を責める訳にもいかないし、Fさんも兎に角着ていくものが無いので困ってしまっていると、何と女性の**神対応**が・・・「直ぐに新しい着替えを用意させていただきます。大変ご迷惑、ご不便をお掛けして誠に申し訳ございません。・・・今暫く此処でお待ち下さいませ！！」と言って足早に脱衣室を出て行きました。

暫くすると女性は新品の下着、浴衣を持って来て、大変申し訳ないとお詫びをしてくれましたが・・・何時までも見つからない下着等に執着して此処で待っている訳にも行かず、用意された着替えを着用し取り敢えず部屋に戻ることにになりました。

「・・・それにしても間違って着て行かれた人も、自分の下着も他人の下着も区別がつかないなんて駄目だよなあ！下着の色も形もサイズも違うだろうし着用した時点で違和感を感じるはずだよなあ！恐らく・・・そのお客さんは随分飲みすぎて酔っているか、かなり認知症が始まっているかのどちらかだよなあ？それにしても酷いよなあ。それにしてもなんて事だ！」・・・とメンバーは夫々言うておりました。

Fさんの体型を見てサイズの合った新品の衣類、浴衣を持って来てくれた女性の神対応でその場が和んだ事は言うまでもありません。(旅館にストックがあったのか近くのコンビニ買いに行ってきたのかは聞かなかったので解りませんが・・・！)

・・・その後、何処を探しても見つけれなかったFさんの衣類は無事に脱衣所にて何ともひょうなことから無事に発見され事なきを得ましたが・・・その発見された結末は・・・皆さんのご想像にお任せします・・・！！それにしても神対応してくれた女性、旅館に感謝ですねえ。

一行は部屋に戻り温泉上がりの食前酒にビールで喉を潤し、暫し部屋で歓談しながら待機。そして夕食会場へ移動、18時30分からは楽しい宴会です。献立は予想通り神戸牛がメイン！「**神戸牛和懷石**」中々の品揃えです。食前酒(デコポン果汁)、先付(サーモン、なます、金時流し)、八寸(貝(サザエ)煮物、サーモン寿司、ヨモギ豆腐、松前漬、二色梅しぼり、里芋田楽、神戸牛時雨煮)、御造理(本鮪、鯛、海老、伊佐木、あしらい一式主炊合せ(梅麴、南京、海老、蕨、芝海老、鳥つみれ)、皆さんが所望していた神戸牛の小鍋(神戸牛(A5?A4?の見事なバランスの良い脂肪(サシ)入り肉)しゃぶしゃぶ鍋(ポン酢、薬味)、焼物(牡蠣のバター焼き、彩野菜添え)、揚げ物(河豚の天婦羅、オクラ、蓮根の海鮮挟み揚げ)、進肴(蟹真





丈、人参、つるつる麺)、お食事(兵庫県産ひのひかり、香の物三種盛り)、水物(料理長お薦めデザート(プリン、フルーツ、道明寺(桜餅))がところ狭しと順次並べられました。

美味しい見事な料理を前にして早速、山口会長の挨拶、今回は両副会長(熊谷、竹原さん)が参加されていないため会長が乾杯を兼ねて宴の始まりとなりました。

それにしても見事な料理で全て食べるには・・・昼食を少しにしておけばよかったと反省！美味しい数々の料理に美味しいお酒、会話も弾み楽しい宴会は 20 時過ぎまで続きました。

神戸牛の美味しさは勿論でしたが、香の物に付いていた「瓢箪のしば漬け」は初めて見ました。勿論、味はしば漬けですが、日本では見たことが無いので・・・仲居(愛寧)さんに聞いたところメイドインベトナムとの事でした。珍しいので当館の売店にお土産用で販売しているとの事でした。美味しさに加え物珍しさもあったので翌日お土産で購入させていただきました。

お腹いっぱいになり十分満足し楽しかった夕食を済ませ、売店に明日購入予定のお土産の下見に行っておる程度目星を付けてから部屋に戻って軽く一杯飲んで早目の就寝となりました。

5 時過ぎに起床し暫くゆっくりしてから、6 時を回ってから温泉に行き、今日も昨日と同様に「金泉」、「銀泉」にゆっくり浸かり今日の英

気を養います。

部屋に戻り早速、部屋のメンバーで温泉上がりの一杯と相成りました。朝から至福の一時！バス旅行なので自運転しないので最高です。・・・これだから現地研修会は止められません。7 時 30 分の朝食まで軽く飲んで歓談し食事会場へ。朝から豪華な沢山のおかずの朝食を食べ、昨夜目星を付けておいたお土産(鉾泉煎餅、瓢箪のしば漬け、丹波の黒豆等)を沢山購入しました。



玄関前で集合写真を撮影、担当の仲居(愛寧)さんはじめ旅館の皆さんに見送られ 9 時過ぎに宿を後にしました。

バスは次の目的地の六甲有馬ロープウェイの有馬温泉駅(海拔 433m)へと向かいました。宿からは 15 分程で到着。暫く待合室で発車時刻まで待機。ほぼ貸し切り状態で 9 時 30 分発のロープウェイに乗車、天気も良かったので眼下に有馬温泉を眺めながら六甲山頂駅

(880m)まで 15 分程の空中散歩を楽しみました。

山頂に着くと六甲ガーデニングテラスで神戸を見下ろしながら暫し散策。集合写真を撮影し、余り見るものも無かったので山頂で待機していたバスに乗り込み予定より早めに六甲山を後にし、昼食場所である神戸市中央区三ノ宮駅近くの創業 160 年、城崎：「和味旬菜

西村屋」を目指しました。勿論、バスの中では昼食場所までビール、日本酒での宴が始まりました。

バスは予定時刻よりも 1 時間以上も早く「西村屋」へ到着したため、急遽、誰の発案であったか定かではありませんが、「折角 此処まで来ているんだから「南京町」で軽く買い物をしよう！美味しいものが沢山売っているからねえ。食事前だからと言って沢山食べちゃうと昼食が食べられなくなるからね！あくまでもほどほどにねえ！」と言うことで皆で南京町に繰り出しました。



「南京町」

南京町は兵庫県神戸市中央区にあるエリアで元町通、栄町通にまたがる一帯の事です。

横浜中華街、長崎新地中華街とともに、日本三大チャイナタウンの一つに数えられ、東西約 200m、南北 110m の範囲に 100 余りの店舗が軒を重ねています。店頭の路上では点心、菓子、食材や記念品などを売る店も多く、特に休日には地元の買い物客や観光客でにぎわいます。



南京町は明治元年(1867 年)の神戸港開港から、中国人が多く住む町として「南京町」と呼ばれる様になりました。また、「南京町」は南京町商店外振興組合の登録商標でもあり、中国風の意匠を特徴とする中華街です。「南京町」は通称としての地名で、住所表記の地名ではありません。

異国情緒あふれる町並みや、本格的な中国料理をはじめ中国雑貨など多くの魅力を提供する町です。皆さんご承知の通り春節やランタンフェスティバルなどのイベントも開催され、国内外の多くの観光客が訪れています。

私も 40 年以上前に来ましたが、異国情緒たっぷり、何を食べても美味しかった記憶がありません。一応、小さな自慢ですが日本三大チャイナタウンは全て訪れたことがあります。横浜中華街は数回、長崎新地中華街は 1 回、此処、神戸南京町は今回で 2 回目になります。

早速、バスを降りて昼食までの 1 時間を目安に南京町へ徒歩で移動しました。西安門をバックに皆で集合写真を撮影し、夫々お目当てのお店でお土産を購入されていました。平日にも拘わらず大勢の人が訪れていました。

私は西安門から長安門(西から東に向かって)へと往復し、品質、価格等総合勘案の上購入する店を予め下見しながら何店かに目星を付けておいて自分への御土産に豚まん、小籠包、北京ダック等を購入させていただきました。自宅に戻り後日食べましたがとても美味しかったです。欲を言えばもう少し・・・冷凍ものを買っておけば良かったと後悔しました。



結果的には・・・皆さん思い思いに昼食前にも拘わらず美味しい豚まん、小籠包、北京ダック、焼き豚、胡麻団子等沢山の食品を食べ、またお土産等も沢山買われて「超がつくくらい・・・兎に角最高！！」でした。

後日、美味しそうな大きな焼き豚を購入された義幸君に・・・「焼き豚のお味は如何でしたか？」って聞いたところ・・・「ジューシーで味付けも良くてとても旨かった！」との事。私も晩酌の摘みに、そしてラーメンの具等に購入しておけば良かったと思いましたが、後の祭りでした。

何方か存じ上げませんが・・・発案していただいた方の臨機な神対応に感謝、感謝です・・・もしかしたら朝日観光の運転手さんかな？

昼食時間の 12 時が近づき、皆さん昼食会場の「和味旬菜 西村屋」へ移動となりました。流石、創業 160 年、中々重厚感のあるまた、何とも趣がある建物です。玄関を入ると二階の「足おとし中広間」の個室に案内されました。既に昼食は用意されていました。遠くからも一目で牛肉のステーキと野菜が解ります。どうやらステーキランチです。流石神戸です！肉は赤身でお世辞でも昨日有馬御苑で食べたしゃぶしゃぶの・・・あのサシの入った神戸牛の A5？A4？の肉とは明らかに違います。良くて国産、○ければ・・・オージービーフ？(オージービーフの名誉の為に申しますが、決してま○い訳ではありません。)重さは恐らく 120g・・・！メニューを見れども何処にも掲載されていません。もしやバス会社さんと提携されているランチメニューではと思い後に調べてみると矢張りその通りであることが解りました。



此処でも集合写真を撮影してから、運転をされない方はビールを注文して乾杯となりました。

昨日から食べ続けまた、飲み続け正に飽食・・・胃袋も悲鳴をあげそうな気配すら感じる中、自分好みの焼き具合で皆さん美味しく完食させていただきました。



バスは既に玄関に到着しており、13 時前に松本駅に向けて出発になりました。

相変わらず乗車後は宴会が続きます。運転される方以外はまだまだ、これからとばかりに日本酒に酎酒(どぶろく風味の日本酒)をガンガン飲みます。テッシー(勅使河原さん)一体御歳は幾つなの？まだまだ...80 歳！今、ビールを飲んで、ステーキを食べて野菜も食べてご飯も食べてきたばかりなのに・・・御見逸れいたしました。

帰路も運転手さんの休憩時間とトイレタイムで途中の SA に寄りながら車中での宴会は延々と続きました。

大津 SA では皆さんまたまたお土産等の買い物です。此処の SA は常に店の外まで行列ができるあの有名な 551 蓬萊の豚まん、餃子に焼売をはじめ、お土産品は琵琶湖名産の佃煮、レアな鮎ずしから海老煎餅、京都の漬物、お茶、八つ橋、伊勢の赤福餅等、更にはお弁当類も充実していて皆に喜ばれる良い品物が沢山あるので売店も常に賑わっています。

メンバーもトイレを早々に済ませると早々に豚まん、餃子、焼売等を大量に購入し 551 の列に並んでいました。私も夕食用に奈良の有名な柿の葉寿司、551 の豚まん、餃子、焼売と毎回此処に寄る際に必ず購入して帰るのが・・・現在は四国の愛媛県松山市の「四国明治松山工場」で製造され西日本でしか販売されていない明治の「カール(チーズ味、うす味)」を購入しました。

バスは途中 3 回程 SA に寄り 6 時半頃には小黒川 SA に到着し、皆さんに別れを告げ義幸と二人王滝に戻りました。

今回は、4 名も参加されずに残念ではありましたが、心に残る楽しい現地研修会になりました。

した。参加されました皆さん二日間に亘り楽しく過ごさせていただき有り難うございました。

業務多忙と週末の個人的な各種イベント等でレポートを書く時間が無く、期日に間に合わず前半、後半になってしまったことをお詫び申し上げます。

また、長々とくだらない稚拙なレポートにもお付き合いいただき感謝申し上げます、これで筆を置きます。

レポーター:ペンネーム:瀬祭 036 (DASSAIO36)ことドラえもん「渡邊 修」

第 75 回現地研修会

「紫陽花の塩田平を塩爺と歩き別所温泉へ」報告

塩沢 乃武行

『信州の鎌倉』と伝えられる塩田平(上田市「青木村」を含む)地域を 8 名の方々(夕刻から 9 名)と散策していただきました。

コースは

■初日(6/25)「あじさい広場」→戦没画学生慰霊美術館 無言館→前山寺(胡桃のおはぎ・三重塔拝観)→龍光院(狩野永琳「四季花鳥図」拝観)→中禅寺薬師堂拝観→きのこ村(昼食)→北向観音→上松や(泊)

■二日目(6/26)青木村大法寺(三重塔)→安楽寺(八角三重塔)→生島足島神社(昼食)散会

特に三重塔を見比べて

□安楽寺八角三重塔(1289 鎌倉時代末期) 国宝

□大法寺三重塔(1333 鎌倉時代末期)

見返りの塔

□前山寺三重塔(1336~室町時代初期)

未完成の完

仏教の伝来と共に三重塔の移り変わりを見ていただきました。

安楽寺の塔は唐様式が強く、和様式の塔(大法寺・前山寺)は屋根に見られる緩やかな反りが「日本刀の鋒(きっさき)」『和』の象徴的な美しさを表し持っています。



八角形の塔は珍しく国宝に指定されていること、大法寺の塔はその美しさから『見返りの塔』と呼ばれ、前山寺の塔は大法寺の塔と見比べ『回廊・天窓』がありません、未完成でありながら装飾のなさから素朴な美しさをもち『未完成の完』と称され塩田北条氏が治めていたことから『信州の鎌倉』と呼ばれ私的には塩田城とこの塔がお寺さんの有り様も含め推しです。

最後に『あじさい広場』の塩田城跡の案内図は「中嶋 豊」さんのイラストマップでした(ビックリ！)。次の現地研修は塩田城跡(弘法山)の里山山行を提案したいと思います。暑い中の散策でしたが参加の皆様お疲れさまでした。暑い季節はお寺でお茶も良いかなとの提案もありました、よろしかったら又訪れて見てはいかがでしょうか♪

塩田の塩爺こと「塩沢 乃武行」

第 30 回上高地談話会（涸沢）報告

澤田 義幸

第 30 回上高地談話会（涸沢談話会）が7月14日（月）15日（火）に涸沢ヒュッテで開催されました。会員等の参加者は26名、14時30分ヒュッテ集合、15時から食堂ホールで講演「上高地におけるサルとクマのはなし」講師は自然公園財団上高地支部の香取草平さんでした。

14日は晴天で、快適な登山となりました。途中本谷橋手前では山口会長が登山道の補修を行っていました。2か月ぶりの涸沢とのこと、横をただ通り過ぎるのは申し訳ないと思いましたが、登山道整備のプロの手を煩わせてはいけないと思い通り過ぎさせていただきました。山口会長ありがとうございます。



登山道整備中の山口会長

涸沢ヒュッテに到着し早速生ビールでのどを潤し講演会に備えました。



講演会前テラスにて

講演会では自然公園財団上高地支部、上高地野生鳥獣対策担当主任として活躍されている香取草平さんが上高地のクマとサルのことや財団の仕事について話されました。香取さんは信大の出身で、上高地で働くようになったのは鈴木先生との縁があったからとのこと。

クマについては「クマは人が食べている物を食べた瞬間から行動が変わってしまう」「野生の動物にとって人間の食べ物は覚せい剤！」「快樂の味を知った野生動物は脳の神経回路が変わってしまう」と話され、クマとトラブルにならないために「クマ鈴を着用する」「ツキノワグマとは距離をとる」など対策を話されました。

サルについては「上高地のサルは日本で一番寒い生息地（サル界で世界一寒い生息地）」「上高地のサルは世界でも注目」「上高地のサルは助け合って生きていく」「目を見つめない、離れて観察する」など話されました。



講演中の香取さん

夕食時の懇親会にはヒュッテ専務の浩一さんの奥さん良子さん（友の会事務局）と娘さんの環さん（山口会長のお孫さん）が登ってきており懇親会に参加され賑やかな会となりました。

15日は雨天の中、下山となりました。

信州大学山岳友の会会報 第56号

発行日：2025年9月29日 発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332 FAX：0263-37-2438 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp